

令和5年8月23日

令和5年度 第73次 印旛地区教育研究集会

国語科「書くこと」分科会 提案資料

研究主題

国語科「書くこと」における
児童の多面的な力を伸ばすための
ICT を効果的に活用した授業づくり

第1部会 佐倉市立上志津小学校

里城 智仁

1 研究主題

国語科「書くこと」における児童の多面的な力を伸ばすための ICT を効果的に活用した授業づくり

2 主題について

(1)本校の実態から

GIGA スクール構想の実現に向け、本校にも令和3年度にデジタル機器(一人一台のタブレット端末)やインターネット環境が整備され、児童がスムーズにデジタル教材を利用できるようになった。

初めの1年は、「児童も教師も、とにかく使ってみよう」を合言葉に、授業やクラブ活動、家庭学習などにも ICT を積極的に活用した。令和4年度は、1年目で使ってみた反省を踏まえ、「今後、授業の中で ICT を効果的に活用するにはどのように取り組めば良いか」を校内で話し合い、国語科をはじめ、様々な教科で実践した。

今回の研究は、全国学力・学習状況調査や佐倉市で行われている学習状況調査の結果から、本校が国語科「書くこと」の文章の構成や形成において、児童間で大きな差があることを踏まえ、「書くこと」を苦手とする児童が ICT を活用することで「書くこと」への意欲を高め、力を伸ばすことができるかに焦点を当てて研究したものである。

(2)学習指導要領から

「書くこと」の指導事項は、学習過程に沿って、次のように構成されている。

- 題材の設定、情報の収集、内容の検討
- 構成の検討
- 考えの形成、記述
- 推敲
- 共有

今回の研究は、第2、5、6学年を対象に授業を行った。第2学年では「構成の検討」、第5学年では「考えの形成」「推敲」「共有」、第6学年では「構成の検討」「推敲」「共有」の場面で ICT を活用した。

	構成の検討
第2学年	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
第6学年	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

	考えの形成
第5学年	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

	推敲
第5・6学年	文章全体の構成や書き表し方に着目して、文や文章を整えること。

	共有
第5・6学年	文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

研究主題の「多面的な力」とは、国語科「書くこと」における「構成の検討」「考えの形成」「推敲」「共有」の4つを指す。




「ICT を効果的に活用」とは、これまでノートやワークシートを用いて取り組んできた構成の検討や考えの形成、推敲、共有、また、友達に助言する際の付箋の利用等だったものをデジタルにし、簡易化かつ効率化することで、「書くこと」を苦手とする児童も意欲を高め、多面的な力を伸ばすことができると定義した。



3 研究の手だて

以下の ICT(Web アプリケーション)を活用し、実践した。なお、これらの ICT(Web アプリケーション)は、校内の低中高ブロック、及び研究推進委員会が学年の実態を考慮した検討の結果、精選したものである。

	構成の検討	考えの形成	推敲	共有
第2学年	『Jamboard』			
第5学年		『ミライシード オクリンク』	『Word 原稿用紙設定』	『Teams』
第6学年	『Padlet』		『Padlet』 『Book Creator』	『Padlet』 『Book Creator』

【Web アプリケーションの紹介】

『Jamboard』 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google のアカウントがあれば、使用できる。(無い場合、編集する際に匿名になる) ・複数人で共同作業ができるオンラインのホワイトボード。最大20枚のフレーム(白紙のページ)を作成することができる。 ・自分が作成したものをみんなに見てもらったり、他の人が作成したのを見たりすることができる。 ・簡単に文字や図が書き込めたり、写真を入れたりできる。多色の付箋機能もある。
『ミライシード・ オクリンク』 	<ul style="list-style-type: none"> ・Benesse が提供する授業支援ソフト。(自治体ごとに使用許可を取る必要あり) ・学習課題を様々な方法で自由に制作できる。タイピングテキスト・手書き・ペイント・カメラ・動画などの機能を用いて、自分の考えを表現できる。 ・自分が作成したものをみんなに見てもらったり、他の人が作成したのを見たりすることができる。
『Word 原稿用紙 設定』	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft 社が開発した文章作成ソフト。 ・レイアウトから原稿用紙設定にすることで、作文をタイピングで書くことができる。 ・Teams と組み合わせることで、他の人にコメントもできる。
『Teams』 	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft 社が開発したアプリ。チャットをベースに様々な機能がある。 ・「チャンネル」の機能を使うことで、メッセージやファイルを、みんなで共有、編集することができる。

<p>『Padlet』</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft や Google のアカウントがあれば、使用できる。(無い場合、編集する際に匿名になる) ・オンライン掲示板アプリ。ダウンロードの必要はない。 ・テキスト入力の投稿をはじめ、画像、音声、動画、手書きなど様々なものを投稿し、みんなで閲覧したり、コメントしたりすることができる。
<p>『BookCreator』</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft や Google のアカウントがあれば、使用できる。 ・電子書籍をつくれるアプリ。ダウンロードの必要はない。 ・テキストや画像、動画、音声、手書きのイラストなどを組み合わせて、簡単な操作で電子書籍が作成できる。 ・作った作品をみんなで見合うこともできる。

これらの ICT(Web アプリケーション)を活用することで国語科「書くこと」において以下の有効性があるだろうと授業実践前に予測している。

- 『全ての ICT(Web アプリケーション)』 → 児童の意欲が向上するだろう。
- 『Jamboard』→何度もやり直せ、色分けできるので、視覚で捉えやすくなり、構成が簡単になるだろう。
- 『Word 原稿用紙設定』『Padlet』『Book Creator』 →推敲が容易になり、効率化を図れるだろう。
- 『ミライシード オクリンク』『Teams』 →意見の共有がしやすくなり、活発な意見・助言の交流ができるだろう。

児童の書く力がどのように高まったか、使用した ICT(Web アプリケーション)が有効だったのかを検証するには、授業を実践した学級の中で、「書くこと」を苦手としている児童が ICT を活用したことで、どのような姿勢(意欲)で学習に向かうことができたのかの観察、及び書く力(タイピングで入力したものも含める)が ICT を活用していない手書きのみの時と比較しての違いを、作成したものを評価し、調べることとする。

4 授業実践及び成果と課題

【実践1】

第2学年2組 国語科学習指導案

1 単元名 おもしろいもの、見つけたよ

2 単元の目標

- ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。 ([知識及び技能](1)オ)
- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 ([思考力・判断力・表現力等]B(1)ウ)
- ・文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。 ([思考力・判断力・表現力等]B(1)オ)
- ・進んで文章に対する感想を伝え合うことができる。 (主体的に取り組む態度)

3 本単元における言語活動

- ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ([思考力・判断力・表現力等]B(2)ア)

4 単元について

(1) 単元観

本単元では、志津自然園や学校の敷地内を観察し、秋の様子として見つけたものを文章に表す活動を行う。身の回りにある事物を表す語句を使って詳しい様子を書くことを通して、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付かせていく。

前期の学習では、生活科の学習の中でミニトマトの観察を行い、大きさや色、手触りなどに注目すると様子を分かりやすく伝えることができると学習してきた。また、国語科の学習では、文章を「始め」「中」「終わり」の3つに分けて書くことを学習している。本単元では、「見つけたもの」をより分かりやすく伝えるためには、どうすればよいのかということを考えさせていきたい。

(2) 児童の実態(29名)

国語科の学習において、「国語科の勉強は好きですか」という質問に対して、「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童が24名(約82.8%)であった。しかし、文章を書くことが「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童は、15名(約51.7%)と半数であった。また、「自分の気持ちを書くことが得意ですか」という質問に対しては、「得意」「どちらかと言えば得意」と答えた児童は、14名(約48.3%)と同じく半数であった。このことから、多くの児童が「書くこと」に対して苦手意識を持っていることが分かる。日頃の授業を見ても、感想を書いたり、自分の考えを書いたりする時に苦戦している児童が多く見られ、「書くこと」が苦手である実態が分かる。文を書くときに難しいと感じるものとして多く挙がっていたのは、「何を書いたら良いのか分からない」というものであった。

一方、ICTを用いた学習に対するアンケートでは、全ての児童が「好き」と答えている。このことから、ICTを活用した学習『Jamboard』を取り入れることで、書く活動へ意欲付けになると考える。

(3) 指導観

本単元では、見つけたものの様子をよく観察して、伝わりやすいように文章を書くことを学習のめあてとしている。学習の最後に1年生に発表するという目的意識を持たせることで、意欲的に活動に取り組ませたい。また、相手意識を持つことで、発見したことをより伝えやすくするにはどうしたら良いかを考えさせたい。

第一次では、生活科で近隣にある志津自然園で観察を行い、秋になって変化したものの様子を見付ける。そして、見つけたものの様子の中から、1年生に伝えたい題材を決める。自分で見つけたものを題材にすることで、意欲的に取り組むことができるようになると思う。文を書きやすいよう、様子を表す言葉には、どのようなものがあるのか(大きさ・色・形・触った感じなど)を事前に確認しておく。身近な場所である志津自然園の中から自分で題材を選択することで、より意欲的に活動に取り組ませていきたい。また、観察したいものの写真を撮り、いつでも振り返りながら文章を書くことができるようにしていきたい。

第二次では、観察して集めた情報をもとに、組み立て表を作成していく。組み立て表を作成し、書く内容を整理し分かりやすくすることで、苦手な児童も活動しやすいうようにしていきたい。その際、「始め・中・終わり」の形式で書くこと、「始め」には見つけた物と場所、「終わり」には思ったことを書くことを確認する。また、「中」の部分は、Web アプリケーションの『Jamboard』を活用して、付箋を並び替えながら構成を練っていく。紙媒体ではなく、デジタルで行うことで、児童が何度も試行錯誤しながら文章の構成を練ることができるようにしたい。様子を表す言葉を色分けした付箋(黄…触った感じ、緑…色、青…形、桃…大きさ、橙…その他)に記入させることで、足りない情報が無いことや順序が正しいかを確認しやすいうようにしていく。それだけでなく、教師や友達がアドバイスをする際、不足している付箋の色を基に、追加した方が良い情報を指摘しやすくしていく。また、グループのメンバー同士、同じ画面上で組み立て表を作成することで、苦手な児童も他の児童の考えを参考にしながら学習を進めていくことができるようにしたい。また、組み立て表を作成した後は、お互いの組み立て表を見合い、アドバイスをする。

第三次では、組み立て表をもとに文章を作成する。また、書き上げた文章をお互いに読み合う活動を行う。学習の成果を確認しつつ、自分や友達の文章の良さに気付かせていきたい。

第四次では、書いた文章を1年生に発表する活動を行う。下学年に学習した成果を発表することで、自分の学習を振り返るとともに、自己肯定感を高めていきたい。

【研究主題】

国語科「書くこと」における児童の多面的な力を伸ばすための ICT を効果的に活用した授業づくり

『Jamboard』を活用し、文章の構成を何度も試行錯誤しながら練ることで、手書きの時よりも、自分の思いや考えがより明確になり、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える力を身に付けることができるようになる。また、リアルタイムで友達の考えを見ることができると、苦手な児童にとっても構成を検討する手がかりになると考える。考えを深める場面では、お互いの画面上で動かしながら話し合いをすることができるため、より具体的で分かりやすい助言ができるのではないかと考える。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、文章の中に使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1)オ)	①「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。((B)イ) ②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。((B)ウ) ③「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。((B)オ)	①進んで文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画(全10時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1・2	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、学習への意欲をもつ。 学習計画を立てる。 志津自然園を観察し、見つけたものの中から題材を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の町探検で見付けたことを振り返り、身の回りで見付けたものの様子に変化していることを友達に伝える学習への意欲をもたせる。 学習計画を掲示し、文を書くために何をすればよいのか考えさせ、学習の見通しをもたせる。 様子を表す言葉(大きさ・色・形・さわった感じなど)について、掲示をもとに確認する。 	[主体的に学習に取り組む態度①] <ul style="list-style-type: none"> 見付けたものの様子を文章に書いて友達に伝えるために、学習への見通しをもち、書くことを決めている。(ノート、ワークシート、発言)
第二次	3・4	<ul style="list-style-type: none"> 見付けたものの様子をメモに書いて集める。 集めた情報について、交流して確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> Jamboardを活用して、メモした内容を付箋に記入する。 作成したメモをジャンルごとに色分けする。 	[知識・技能①] <ul style="list-style-type: none"> 身の回りで見付けたものについての情報をメモに書いて集め、必要に応じて増やしている。(観察、ワークシート)

	5 (本時) ・6	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を観点ごとにまとめる。 ・観点ごとにまとめたメモを並べながら、文章の組み立てを考える。 ・友達と交流し、確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を確かめ、観点ごとにまとめることよさを確かめさせる。 ・Jamboard を活用してメモを並べながら、組み立てを考える。 ・組み立て表をもとに、「中」の文章を書く。 	<p>[思考・判断・表現①]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたものの様子について集めた情報を並べ、文章の組み立てを考えている。(タブレット、発言)
第三次	7 ・9	<ul style="list-style-type: none"> ・「始め」「終わり」の文を書く。 ・組み立て表をもとに文章を書く。 ・書いた文章を読み返し、まちがいがあれば修正する。 ・互いの作文を紹介しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字や表記だけではなく、「始め」「中」「終わり」の三段構成になっているか等を全体で確認する。 ・前時までの内容を参考にできるように、タブレットを手元に置かせる。 ・書いた文章を読み返し、順序や語や文のつながりなどについて確かめる。 	<p>[知識・技能②]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで見つけたものについて、様子を表す語句を用いて文章を書いたり、読み返したりしている。(ノート、ワークシート、観察)
第四次	10	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に、書いた文章を発表する。 ・学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に向けてグループごとに発表する。 ・友達からの感想をもとにしながら、自分の書いた文章のよさについて振り返るよう確認する。 	<p>[思考・判断・表現②]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み合い、見つけたものの様子が伝わるように工夫して書けたところを確かめている。(ノート、ワークシート、観察)

7 本時の指導

(1)評価規準

- ・物の様子や事柄の順序など文と文とのつながりについて理解しようとしている。

[知識及び技能]

- ・見つけたものの様子について集めた情報を並べ、文章の組み立てを考えている。

[思考力・判断力・表現力等]

(2)展開(5/10)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 ☆ICT 活用	資料
3	1 本時の学習と学習のめあてを知る。【見いだす】		・資料
	つたえたいことが分かりやすいように、じゅんじよを考えよう。		

5	2 「始め・中・終わり」の組み立て表を理解し、本時は中の部分の構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示をもとに、「始め・中・終わり」のそれぞれの部分に何が書いてあるのかを確認をする。 ☆前時までには作成したメモをもとに、Jamboardで、中の部分の構成を考えさせる。 ・「大きさ」「色」「形」「触った感じ」などについての構成を考えさせる。 ・掲示の例をもとに、観点ごとにメモを並べると意味が伝わりやすいことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・タブレット
12	3 順序を考えながら、Jamboard でメモを並び変える。【自分で取り組む】	<ul style="list-style-type: none"> ☆付箋の色をもとに、事柄が入り混じらないように気を付けさせる。 ○見付けたものの様子について集めた情報を並び、文章の組み立てを考えている。 [思考力・判断力・表現力等] ・他の人の組み立て表を見ても良いことを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット ・ワークシート
13	4 グループごとにお互いの組み立て表を見合い、アドバイスをする。 【広げ深める】	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のアドバイスをもとに、組み立て表を修正しても良いことを伝える。 ○物の様子や事柄の順序など文と文とのつながりについて理解しようとしている。[知識及び技能] 	
7	5 友達のアドバイスをもとに、組み立て表を修正する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3の順番と入れ替わってもよいことを説明する。 	
5	6 本時の活動を振り返り、次時の学習内容を確認する。【まとめあげる】	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しをもって終わらせる。 	

【成果と課題】

○成果

- ・ICT を活用した学習であったため、児童の学習意欲を高めることができた。(集中して取り組んでいた。)
- ・付箋紙を活用したアナログでの学習とは異なり、デジタルで付箋を作成できるため、道具の準備や、やり直しが容易であった。
- ・紙に書いて消すという手間が無く、色の変更等もし易いので、「書くこと」に抵抗のある児童にも意欲をもたせることができた。
- ・『Jamboard』を活用し、グループ活動にしたことで、文の組み立てが苦手な児童も友達の真似をしながら構成を練ることができた。また、文章に表すことができた。

・『Jamboard』の付箋を特徴ごとに色分けしたことにより、児童が大きさや形など、色々な情報を文章に取り入れることができていた。

▼課題

- ・『Jamboard』の特徴として、共同編集できる一方で、匿名性がある。「他の人のデータをいじらないこと」や「悪ふざけをしないこと」などの情報モラルについての指導が必要である。
 - 児童一人ひとりに Google アカウントがあれば、匿名性については解決できる。
- ・付箋の作成(Jamboard)から組み立て表(ワークシート)までの流れが二度手間になってしまった。
 - 組み立て表の作成がタブレットのみで完結すると良い。



Jamboard で付箋を並び替えているところ



Jamboard での編集の様子



Jamboard で作成した組み立て表をお互いに見合い、どのようにアドバイスしたらよいかを指導しているところ

【実践 2】

第5学年1組 国語科学習指導案

1 単元名 世界遺産 白神山地からの提言 意見文を書こう

2 単元の目標

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
(〔知識及び技能〕(2)イ)
- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
(〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ)
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
(〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ)
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

3 本単元における言語活動

- ・自然保護のあり方に対して課題意識をもち、意見文にまとめる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、「意見文を書く」という言語活動をとおして、児童が多様な情報を読み、根拠となる資料をもとに思考・判断・表現し、自分の考えを深めていくことを意図して設定されている。児童は、世界遺産である白神山地の自然保護の実態や理念などの情報を読み取り、自然保護のあり方について課題意識をもち、自分の立場を決めたり、考えをまとめたりして意見文として表現する学習を展開する。

意見文を書くことは、児童にとって初めての活動となる。そのため、第一次では、自分の立場を明確にし、その立場から調べたことや考えたことを読み手に納得してもらえるように記述するという意見文の特徴を学び、学習の見通しをもつ。第二次では、立場を明確にするために、白神山地における自然保護の対立する二つの考えを知り、自分はどう考えるか立場を決める。第三次では、自分の立場を決めた上で、その考えの根拠となる情報を教科書内の資料から見付け、ワークシートにまとめる。また、書き出した情報の中で、どれを自分の根拠として提示するのが効果的なのか、話し合い活動をとおして交流し、検討する。第四次では、自分の考えがはっきりと表れるような意見文の構成を考え、書いた後、友達と意見文を読み合って感想を伝え合うことで、世界遺産における自然保護についての考えを広めていく。

(2) 児童の実態(34名)

環境問題や自然保護について関心がある児童は28名(82%)と高く、日々のニュースを見聞きしたり、総合的な学習の時間にSDGsについて学んだ際に、詳しく知りたいと調べたりしたことが関心をもつきっかけであることが分かった。また、環境問題や自然保護について知っていることとして、地球温暖化、海洋汚染、異常気象、ごみ問題などを挙げる児童が全体の9割を占めたことから、本単元の主題であ

る自然保護のあり方に対して問題意識をもって取り組むことができると思われる。

「文章を読むことが好き」と答えた児童は25名(73%)であったが、物語文を読むことを好む児童が多く、説明文に関して読むことが好きと答えた児童は21人(60%)ほどであった。

「自分の意見を発表することが好き」と答えた児童は10名(30%)と低く、また、「自分の考えを進んで書くことができる」と答えた児童もほぼ同数であった。「苦手である」「できない」理由としては、「自分の考えに自信がない」「何と言ったら(書いたら)よいか分からない」ことが理由として挙げられた。「書くこと」に対し、苦手意識をもっている児童が70%いる。

(3) 指導観

自分の意見をもったり、それを発表したりすることを苦手とする児童や自分の考えを書くことが苦手な児童は学級の7割近くもいる。10月に学習した「AIとの暮らし」の学習において、考えを広げるために立場を決めて話し合いをするミニディベートをした際には、根拠をもって自分の意見を伝えることを9割以上の児童ができていた。また、自分の意見を伝える際に必要な構成メモや資料の提示も全員が行うことができた。以上の点から、学習活動において児童らが世界遺産における自然保護に対する課題意識をもち、説明文を「何のために読むのか」という目的意識を明確にすることで、自分なりの考えをもち、文章化して発信することが可能であると考えられる。

教材文は、白神山地について書かれた文章が2つと、白神山地に関する情報資料が6つから構成されている。世界遺産である白神山地について学習したのち、この自然を守るために、「人間を自然に近づけないようにして守る」と、「人間が自然と関わり合いながら守る」の2つの考えから自分の立場を決定する。自分の考えを支える根拠となる情報を資料内から取捨選択し、「始め」「中」「終わり」の形式で提言文を書いていく。

児童の実態から、いきなり提言文を書くことはハードルが高い活動と考えられる。そのため、「構成メモ」としてワークシートの活用と ICT を活用した共有を行う。このメモは教科書の提言文の例文と同じ構成にし、形式として児童に提示することで、書くことへの抵抗感も無くすことをねらう。また構成メモを共有することで「何をどう書けばよいか分からない」児童への手立てとしたい。

「構成メモ」をもとに、多様な情報から自分の立場や考えを明確にして交流する話し合いの場面を ICT を活用して設定する。話し合いを通して、考えの根拠が広がったり、深まったりする経験を通して、立場や考えを明確にする必要性や実感をもたせられるようにしていきたい。

【研究主題】

国語科「書くこと」における児童の多面的な力を伸ばすための ICT を効果的に活用した授業づくり

『オクリンク』の活用により、作成した構成メモをお互いに読み合うこと(共有)が可能なので、どのように意見をまとめたらよいか分からない児童は、他の児童の意見を参考にすることで、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする力を身に付けることができると考える。

また、事実と感想や意見とを区別して書いているかをお互いに確認でき、自分の考えたことなどが客観的な事実と裏付けられたものになっているかどうかを振り返ることができるため、自分の考えをより深めていく力を身に付けることができるだろう。

意見文を書く際は、原稿用紙に手書きではなく、『Word 原稿用紙設定』を用いてタイピングで書き進

めていく。一マス下げることが忘れたり、誤字脱字があったりすることで再度書き直しをする際、児童は書くことの意欲が低下してしまうことがある。タイピングなら書き直しや意見の付け加えも容易となるので、原稿用紙の使い方に意識が向かうのではなく、内容面において自分の考えがより伝わるようにすることに力を入れられると考える。

書いたものは、『Teams』にアップロードし、みんなが閲覧できる状態にしておくことで、文章に対する感想や意見の伝え合いが容易になり、自分の文章のよいところを見付けることができるだろう。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア)</p>	<p>①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ((B)ウ)</p> <p>②「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 ((B)オ)</p> <p>③「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ((B)カ)</p> <p>④「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 ((C)ウ)</p>	<p>①積極的に多様な文章や資料を比べながら読み、学習課題に沿って自分の考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書こうとしている。 〔学びに向かう力、人間性等〕</p>

6 指導と評価の計画(全11時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を捉え、白神山地について知る。学習の手順を知り、学習の見通しをもつ。 ・教材文「ブナの森が支える豊かな自然」を読み、白神山地が世界遺産に登録された経緯と、その自然の恵みについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提言と意見文の違いについて理解させる。 ・自分の立場をはっきりさせて意見文を書くとともに、友達と意見交流し、自然保護における様々な考えを知ることを学習のゴールとすることを知らせる。 	<p>[知識・技能] 白神山地の特徴を読み取り、理解している。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 白神山地の自然に関心を持ち、進んで自然保護の考えを持つようとしている。</p>
第二次	3 6	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み、白神山地の自然保護についての課題を知る。 ・資料1～7を読み、そこから考えたことや疑問に感じたことを資料に直接書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・核心地域と緩衝地域の違いを読み取らせる。 ・自然保護の考えには、「人の手を加えず、自然の推移に委ねる」立場と、「人が関わって自然を守る」立場が存在することを理解させる。 	<p>[知識・技能] 核心地域と緩衝地域の違いを読み取り、自然保護における二つの立場が存在することを理解している。</p> <p>[思考・判断・表現] 核心地域における違法伐採や、世界遺産登録後の人々の行動について読み取り、自分の考えをまとめている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 白神山地について書かれた多様な文章や資料を、比べながら積極的に読もうとしている。</p>
第三次	7 8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然保護に関して、自分の立場を決め、その考えの根拠となる情報と自分の考えをまとめる。 ・グループ内で意見を交流し、共通点や相違点をまとめ、自分の考えをさらに深める。 ・自分の考えとその根拠を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠となる資料の整理の仕方について確認させる。 ・オクリンクを意見の交流の際に活用する。 ・意見の交流をする際のポイントについて確認させる。 	<p>[思考・判断・表現] 資料から得た情報や自分の考えを根拠に、自然保護に対する自分の立場の考えを書いている。 自然保護についての意見を交流し、自分の考えと比較しながら考えを深めている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 積極的に文章や資料を比べながら読み、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書くための構成メモを書こうとしている。</p>

第四次	9 1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文の書き方を知り、意見文を書く。 ・グループで意見文を読み合い、感想を伝え合う。(『Teams』の活用) ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を決め、「始め」の部分を書かせ、自分の立場や考えに合った根拠を「中」に書かせる。(『Word 原稿用紙設定』の活用) ・「始め」に主張したことや、「中」で根拠としたことを踏まえ、自分の考えがより伝わるように「終わり」を書かせる。 ・友達の意見をもとに、書いたものを推敲させる。 	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>自然保護についての意見を交流し、自分の考えと比較しながら考えを深めている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>白神山地の自然保護について、自分の考えを意見文に書いたり、友達の意見文と比較しながら読んだりしている。</p>
-----	-------------	--	--	--

7 本時の指導

(1)評価規準

- ・自然保護についての意見を友達と交流し、比較しながら自分の考えを深めることができる。

[思考・判断・表現]

- ・積極的に文章や資料を比べながら読み、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして「構成メモ」を書こうとしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

(2)展開(8/11)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 ☆ICT 活用	資料
2	1 本時の学習と学習のめあてを知る。 【見いだす】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分の立場を明確にして意見を交流し、考えを深め合おう。 </div>		
3	2 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次で書き込みをした資料を基に振り返る。 ・資料1～7の掲示を見ながら、白神山地が抱えている自然保護の課題を確認する。 	掲示物 書き込みをした資料
2	3 自分の立場を明らかにする。 ・「人の手を加えず、自然の推移に委ねる」→桃色 ・「人が関わって自然を守る」→水色	☆オクリンク上の背景に色付けをして立場を明らかにする。 ☆色分けされた画面を見て、グループのメンバーがどちらの立場にいるのかを知る。	タブレット
5	4 「構成メモ」を写真に撮り、オクリンクで送る。	○前時に書いた「構成メモ」を読み返し、足りない場合はさらに根拠を書き加えても良いことを伝える。	構成メモ(ワークシート)

15	5 グループに分かれ、意見交流をする。 【広げ深める】	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流のポイントを見て、何を意識して話をしたり相手の話を聞いたりすればよいのかを確認する。 ☆グループのメンバーの「構成メモ」は自分のタブレットで見ながら意見交流する。 ☆友達からのアドバイスは自分のオクリンク上の画面に直接書き込みをして残しておく。 ●自然保護についての意見を友達と交流し、比較しながら自分の考えを深めようとしている。[思考・判断・表現](発表・オクリンク) 	
10	6 全体で意見交流の内容を共有する。 ・違う立場でも同じ資料を選んでいる。 ・同じ資料でも自分とは異なる読み取り方をすることができる。 ・違う立場の意見を聞いて、自分では気付かなかった新しい考えを知ることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表が意見交流の内容を発表する。 ・他のグループで出た意見を聞くことで自分の考えをさらに深めることができることを確認する。 ☆書き込んだオクリンクの画面を見ることで、様々な意見を知ることができる。 	テレビ タブレ ット
5	7 友達の助言をもとに自分の「構成メモ」の書き加えを行う。 【まとめあげる】	<ul style="list-style-type: none"> ●積極的に文章や資料を比べながら読み、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして「構成メモ」を書こうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度] (ワークシート) 	
3	8 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は「構成メモ」を基にして、意見文を書いていくことを伝える。 	

【成果と課題】

○成果

- ・『オクリンク』を活用し、お互いの構成メモを見合う場を設けたことで、自分の意見をもつことや書くことが苦手な児童も、友達の意見を参考にして自分の考えを書くことができた。
- ・『Word の原稿用紙設定』を用いて意見文を書いたことで、加筆修正がしやすいという点から、児童は文章を書くというハードルが低くなり、原稿用紙の使い方意識を向けるのではなく内容面において自分の考えを表現することに重きをおくことができた。通常の手書き作文よりも文章量が増え、内容も充実したものとなった。(書くことが苦手な児童に顕著に成果が表れた。)
- ・完成したものを『Teams』にアップロードし、皆が閲覧できるようにしたことで、教師がその場で助言したり、書き込みをして返したりすることもできた。指導時間の短縮になり、児童も書き上げたモチベーションを保ったままで手直しをすることができた。(書く意欲の向上が見られた。)

▼課題

・ICTの活用による効果は大きいですが、個別の机間指導をする際、タブレットの画面に表示されている文字が小さく、適切に表現できているかが分かりにくいという点があった。教師が自分のPC上から操作して確認しても良いが、一つの画面を見て、直接対話しながら加筆修正していく方法も素早くフィードバックできるという点でメリットがあるため、その点は課題であると考えます。

【使用したアプリの有効性】

[使用したアプリ]『ミライシード オクリンク』

[有効性]

- ・一斉送信することで、瞬時に友達の考えを知ることができ、意見交流を活発にすることができた。
- ・作成したものを蓄積していくことができるので、振り返りにも使え、自分の成長に気付くことができた。
- ・操作が簡単なため、自由な表現活動につなげることができた。
- ・手書きの「構成メモ」を写真撮影し、オクリンク上で書き込むこともできるので、話し合い活動でメモを取ったり、加除訂正したりするのが簡単であった。

[使用したアプリ]『Word の原稿用紙設定』

[有効性]

- ・作文用紙の使用設定が出来上がっているため、書き方における不安点がなくなり、児童にとって取り組みやすいきっかけとなった。

【実践3】

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 里城 智仁

1 単元名 物語を作ろう(書く)

2 単元の目標

- ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とそ
の特徴について理解することができる。 [知識及び技能](1)カ
- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
[思考力、判断力、表現力等]B(1)イ
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
[思考力、判断力、表現力等]B(1)オ
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合お
うとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

写真から想像を広げ、展開を考え、表現を工夫して物語を作る。

(関連:[思考力、判断力、表現力等]B(2)イ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、オリジナルの物語を作ったり、読み合ったりすることを通して、想像力を広げることや、他者と交流する楽しさを感じることをねらいとしている。

主な内容は次の通りである。単元の導入では、たくさんの人物が写っている一枚の写真を提示する。そこから物語の中心人物を選び、詳細な設定を考える。そして、あらすじを構成し、内容について他者と意見交流をしながら物語を作っていく。最後に、他者と作った物語を読み合い、感想を伝え合う。「自分であらすじを構成し、物語を作る」ことは、主体的に学習に取り組む態度が求められる。また、日々の読書経験により、あらすじのアイディアの創出に差が表れるだろう。アイディアの創出のための支援を授業で講じる必要がある。


物語を作る上で、読み手を楽しませるために、人物や場面の様子を効果的に表現したり、書き出しや書き終わり、文体などを工夫したりすることが大切である。文章の表現技法について知り、使うことができる能力も身に付けられるようにしていきたい。

(2) 児童の実態(事前調査 29名)

質問① 物語や小説などの本を読みますか。	
よく読む。(ほぼ毎日)	11名
読む。(1週間に何回か)	12名
あまり読まない。(1ヶ月に何回か)	3名
読まない。	3名

質問② 想像したり、空想したりすることについて	
好きである。	9名
どちらかといえば好きである。	17名
あまり好きではない。	2名
好きではない。	1名

質問①で「あまり読まない。」「読まない。」、質問②で「あまり好きではない。」「好きではない。」と回答した児童は2名いた。この単元に関心が少なく、主体的に学習に取り組む態度が低い可能性がある。授業内での特別な支援が必要だろう。

質問③（15分間） この写真から想像を広げ、オリジナルの物語を作るとします。 （アニメや漫画の話のマネは×） 大まかな展開を考え、メモし、物語を作りなさい。		
写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ることができる。	7名	
物語を大まかに作ることができる。	13名	
物語をほとんど(全く)作ることができていない。	9名	
人物や場面の様子を効果的に表現している。(会話文・情景描写・文末表現など) ※ 質問③の児童が書いた物語の中で、文章の表現技法を取り入れている人数である。	10名	

物語を作るとは、約7割の児童ができており、3割の児童が苦手としている。児童はこれまでに国語科の学習で随筆や作文など書く活動を経験している。しかし、題材が決まっているものではなく、自由であると、一定数の児童が書くことができない。今回の事前調査では、単元と同じように一枚の写真から自由に内容を考えてよいことにしたが、全く書けなかったり、想像を広げることができていなかったりする児童が見られた。

会話文や情景描写、書き出し、文末表現などの人物や場面の様子を効果的に表現している児童は、約3割である。既習の表現方法やその良さを再度確認する必要がある。

本単元の「書く」活動ではタイピングを用いて行う。児童はタイピングに慣れ親しんでおり、手書きよりも書く作業が容易になると期待できる。

(3) 指導観

単元観や児童の実態から、指導に当たっての主な手立てを3つ講じる。

1つ目は、この単元に関心が少なく、主体的に学習に取り組む態度が低い可能性がある児童にも物語を作る楽しさを感じられるようにしたい。そのために、単元の導入で一枚の写真を提示した後に、気付いたことや見付けたことを自由に話し合わせたり、ストーリーを想像させたりする時間を十分に確保することである。また、学習の見通しを立てられるように、教師が作成した物語を提示する。

2つ目は、人物や場面の様子を効果的に表現する方法や書き出しや書き終わり、文体などの工夫についての知識・技能の定着のために、本単元の開始1ヶ月前から毎時間の国語の授業で帯活動として取り扱うことである。

3つ目は、思考ツール(ワークシート)を活用することである。あらすじを書く前のアイデアを出す段階で、思考ツールを取り入れたワークシートを複数用意し、いつでも使えるようにしておく。

【研究主題】

国語科「書くこと」における児童の多面的な力を伸ばすための ICT を効果的に活用した授業づくり

物語の登場人物の設定やあらすじの構成、物語の作成及び感想の交流などにおける書く活動には、Web アプリケーションの『Padlet』を使用する。書く時間の短縮や表現力を伸ばすためのツールとする。『Padlet』は学級内の全児童の活動内容(投稿)を教師も児童も同時に確認することができる。コメントをしたり、称賛したりする機能もあり、児童同士の学び合いに活用することもできる。また、タイピング入力のため、友達からの意見や新たなアイデアを付け足すこと、文章の推敲も容易である。

『Padlet』は活動内容がリアルタイムで表示されるため、投稿した内容について、小まめに助言を行うことができる。一人一人の活動の進行度合いが一目で分かるので、進んでいる児童から順にコメントを送ることができる。また、活動に遅れが生じている児童には、直接、相談に乗ったり、助言をしたりすることも可能である。これらの手立てにより、書くことが苦手な児童に対しても筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える力を身に付ける助けとなることができるだろう。

単元のまとめとして、児童がいつでも読むことができる物語集を作成する。タブレットで読めるように電子書籍(『Book Creator』の活用)にし、書くことへの意欲を高めていく。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 ((1)カ)	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ②「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	①積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題にそって写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。

6 指導と評価の計画(全6時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
第一	1	・写真を見て、想像を広げる。 ・写真の中から登場人物を決め、人物設定を「人物カード」(Padlet)に入力する。	・物語を創作することを伝え、活動の具体的なイメージをもてるようにし、意欲を高める。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>観察</u> ・教科書の写真を見て、気付いたことや感じたことを友達と積極的に話し合っている姿を確認する。
第二	2	・物語の大まかな展開を考え、あらすじを書く。	・主な読者は同世代が対象であることを伝え、適切な展開になるようにする。	[思考・判断・表現①]Padlet ・物語の始まり、出来事のきっかけ、展開、山場、結末を意識した

			・「山場」の意味を全体で確認する。	あらすじが書けているかを確認する。
3 本 時	・グループで話し合い、読者の視点も加え、あらすじの加除修正をする。	・友達の意見を聞くことで自分の考えが広がることを伝え、積極的に交流できるようにする。		[思考・判断・表現①]Padlet ・物語の始まりと結末で中心人物の変化が分かるように書いているかを確認する。
第 三 次	4 ・人物や場面の様子を効果的に表現する方法を確認し、物語を作り始める。 (『Book Creator』の活用)	・表現の工夫を全体に提示し、児童がその中から1つ以上を選んで記述に活かせるようにする。		[知識・技能①]BookCreator ・語句の係り方や文と文のつながりが適切にできているかを確認する。
	5 ・物語を作る。 (『Book Creator』の活用)	・山場を詳しく書くように指導する。 ・文章の表現技法の一覧表を配付し、その中から1つ以上は物語の中に取り入れるよう助言する。		[思考・判断・表現]BookCreator ・内容や表現に一貫性があるか、適切な構成になっているかを確認する。
	6 ・友達と読み合い、感想を Padlet に書き込む。	・否定的な言葉は使わないように伝える。		[主体的に学習に取り組む態度①] Padlet ・友達の物語を読み、積極的に感想を書いているかを確認する。

7 本時の指導

(1) 評価規準

・物語の始まりと結末で中心人物の変化が分かるように書くことができる。 [思考・判断・表現①]

(2) 展開(3/6)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 ☆ICT 活用	資料
10	<p>1 本時の学習と学習のめあてを知る。</p> <p>・教師が作成した2つのあらすじを紹介し、どちらの方が読みたくなる物語か、また、そのように判断した根拠は何かを話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・読者はどのような物語が良いと判断するのかを全体で確認し、明確にする。</p> <p style="text-align: right;">【見いだす】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>グループで話し合い、助言をもとに、あらすじを修正しよう。</p> </div>	<p>・読みたくなるような物語はどんな展開かを考えられるように、近くの人と話し合う時間を取る。</p> <p>・次の活動(友達の考えたあらすじに助言する。)へ繋がるように、助言のポイントを板書し明確にする。</p>	<p>資料 提示 Teams</p>

20	<p>2 グループごとに、友達の考えたあらすじを読み、助言をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達のあらすじに、Padlet のコメント機能を使い、助言(無ければ良いところ)を書き込む。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いて、自分の書いたあらすじを振り返ったり、友達のあらすじの良い点を取り入れたりして、互いに学び合うことができる。 <p style="text-align: right;">【広げ深める】</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「物語の始まりと結末で中心人物の変化が分かるように書けているか」が助言のポイントに無ければ、教師から提示する。 ・友達のあらすじを否定しないよう指導を十分に行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○Padlet[思考・判断・表現①] 《「努力を要する」と判断した児童生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の始まり、または結末をどのようにしたいかを聞き、それを踏まえて中心人物の変化が分かるような書き方を助言する。 </div> <p>☆Padlet で助言することで、聞き逃しをせず、よく吟味してあらすじの修正に生かすことができる。</p>	Padlet
10	<p>3 あらすじの修正に取り組む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ以外の友達のあらすじも参考にし、自分で考え、あらすじの修正に取り組む。 <p style="text-align: right;">【自分で取り組む】</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じグループの友達の活動の妨げにならない範囲で、話し合いを行い、あらすじを修正し合っても良いことを伝える。 	
5	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を書く上で大切な視点は何かを踏まえ、今日の授業で学んだことや感想を Padlet に書き込む。 <p style="text-align: right;">【まとめあげる】</p> </div>		Padlet

【成果と課題】

○成果

・この単元に関心が少なく、主体的に学習に取り組む態度が低い可能性がある児童も、物語を楽しく作ることができた。(授業後のアンケートより)

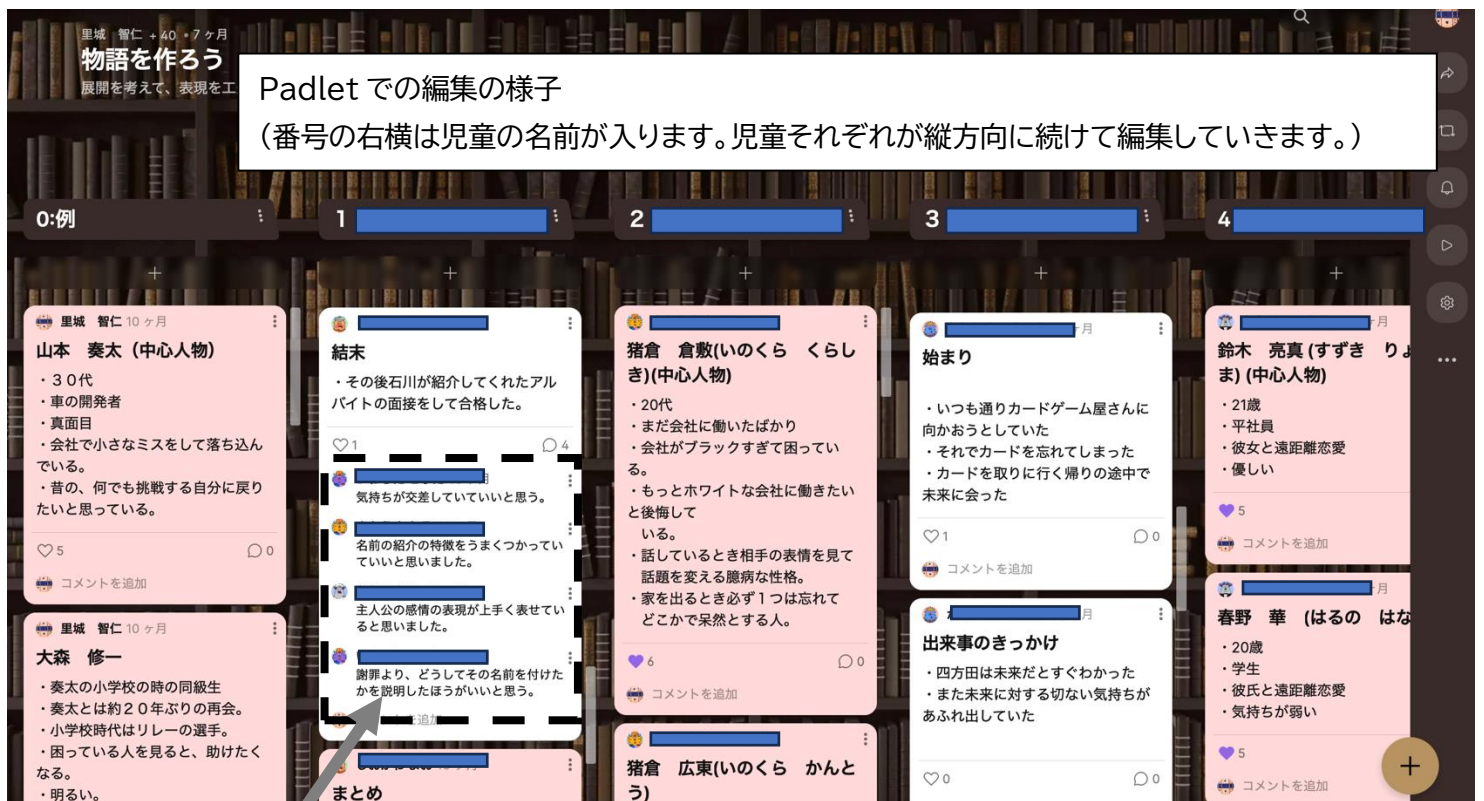
物語を作る活動は楽しかったですか？	
とても楽しかった。 16人	あまり楽しくなかった。 0人
楽しかった。 15人	楽しくなかった。 0人

- ・物語の登場人物の設定やあらすじの構成、物語の作成及び感想の交流などにおける書く活動の全てに ICT を活用したことで、書く時間の短縮につながり、文章全体の構成や展開を考える時間に充てる事ができた。
- ・Web アプリケーション『Padlet』や『Book Creator』を使用することで、学級内の全児童の活動内容（投稿）を他の児童も同時に確認することができるので、書くことが苦手な児童も他の児童の内容を参考に自分の作品を書くことができた。
- ・『Padlet』に投稿した児童の活動内容について、一人一人の活動の進行具合が一目で分かるので、進んでいる児童から順に指導することができた。また、活動に遅れが生じている児童には、直接、相談に乗ったり、助言をしたりすることが何度もできた。故に、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える力を身に付ける助けとすることができた。
- ・タイピング入力のため、友達からの意見や新たなアイデアを付け足すこと、文章の推敲も容易であった。また、書くことが苦手な児童も手書きの時と比べ、文量が増加した。
- ・『Book Creator』は、内容の構成やフォントの変更、挿絵の有無なども自由に作成することができるので、何度も試行錯誤したり、友達と助言し合ったりしながら取り組めた。書く意欲が高まった。

▼課題

- ・手書きの方がよいと感じる児童もいたので、作成方法や手書きの有効性の検討は必要である。

物語を書く時に、『Book Creator』を使いました。もし、また同じ活動をする場合、どちらが良いですか？	
Book Creator 29名	手書き 2名 (理由)→タブレットの文字入力が好きではないから。



**如月 恵 (きさらぎ めぐみ)**

- ・お母さん
- ・34歳
- ・夫は事故で亡くなる
- ・子供を毎日1人で一生懸命にそだてる
- ・新しい保育園で子供が馴染めるかとても心配

♡ 4

💬 0



コメントを追加

**如月 凧咲 (きさらぎ なぎさ)**

- ・4歳の女の子
- ・友達思い
- ・新しい保育園で友達をつくりたい

**始まり**

- ・夫が事故で亡くなり、母1人で子供を育てることになった
- ・その事情で新しい保育園に行くことになった

♡ 3

💬 0



コメントを追加



- ・新しい保育園で凧咲は皆に馴染めなく、いつも1人ぼっちでした。
- ・お母さんは凧咲が少しでも1人にならないように、仕事を毎日頑張って終わらせ、走って家に帰っている
- ・凧咲を寝かしたら、また仕事に行き、毎日眠れないほど忙しい日々をおくっている

♡ 2

💬 0



- ・凧咲が保育園で1人で折り紙をしていたら先生が来て一緒に折り紙をしてきて皆が集まってきた。
- ・そのあと凧咲はたくさんの友達ができ毎日が楽しくなった。

♡ 1

💬 0

**終わり**

- ・凧咲は毎日楽しそうに保育園での話をしてきて心がほっこりする
- ・久しぶりに凧咲がいききたいといったショッピングモールに行ってとても楽しい時間を過ごせた。凧咲も楽しそう良かった
- ・これから2人とも頑張ろうという気持ちが芽生えた

♡ 2

💬 2



スムーズに話が進みすぎる



スムーズに話が進んでいるけど感動しました



コメントを追加

**まとめ**

物語を書く時の工夫をたくさん身につけられました。ちょっとした表現技法を使うことで何倍も良い物語をつくれるということが分かりました。このことを意識してこのあとさらに良い物語をつくっていきたいです。

♡ 1

💬 0

ある児童1名の物語の登場人物の設定やあらすじの構成(Padlet)

第 一 歩

～家族の絆～

(大丈夫かなあ...)

私は如月恵(きさらぎめぐみ)。夫が1ヶ月前事故で亡くなり4歳の子供の凧咲(なぎさ)を私1人で育てている。その関係で凧咲は幼稚園から保育園に行くことになった。そして今日は初めて保育園に行く日。父の死を凧咲に知らせたとき、私の予想以上に大声で泣き始めた。それから1ヶ月ほどたち今、保育園へと向かって歩いている時も凧咲の顔はどんより曇っている。

(友達できるかなあ) (泣いたりしないかな) などと私までとても緊張している。凧咲の笑顔を見たい。それが私の一番の願いだ。凧咲を保育園へと送ると私はすぐに仕事場へと向かった。それなりに仕事は大変で、亡くなった夫のことを何度も考えてしまう。夫の死をまだ私は受け入れられない。多分凧咲もそうだ。今は二人とも辛い時期だけど今できることは仕事しかないのととりあえず仕事に目を向ける。夕方5時頃になると私は急いで保育園へと向かった。園を覗くと凧咲は一人で絵を描いていた。



ある児童1名が作成した物語の一部(Book Creator)

[どのような授業(教科)に応用できるか。]

社会科や道徳科、学級活動で意見交換したり、議論したりする際に、Padlet を使用することで他の児童の意見をリアルタイムで確認できる。また、書くことが苦手な児童も早く書き終わったものを参考にできる。写真や動画もアップロードできるので、図工の鑑賞や各教科の振り返りでも活用できる。



5 学校教育活動としての実践

本校では、国語や算数の基礎基本の向上のために、週に3日、25分間の習熟タイムを設けている。その時間を用いて、タイピング入力の実技能向上のために全校でタイピングタイムを導入している。どのくらい取り組むかは各学年の実態に応じて決めているが、学年の系統性を図るため、使用するタイピングサイトを限定している。

国語科「書くこと」において ICT を活用するということは、タイピングの技能によって効果に大きな差が出る。(他教科でも同様である。)そこで、ICT をどのように活用していくかを検討する校内での話し合いの際に、まずは ICT の基礎基本であるタイピングの技能を向上させようということで今回の取り組みが始まった。ローマ字入力を始めたばかり、または入力が苦手な初心者向けやある程度の入力に慣れてきた中級者向けなど、複数の Web サイトを精選し、学校のデジタル掲示板とも言える『Teams』にその URL を載せることで、児童が自分の能力に合ったものを自身で選び、取り組めるようにした。

現在、タイピングタイムは2～4年生を中心に行なっている。2年前からタイピングタイムを導入している5・6年生においては、タイピング技能に差はあるものの、著しく入力に遅れが伴う児童はいない。



6 考察

『全ての ICT(Web アプリケーション)』 → 児童の意欲が向上した。

『Jamboard』 → 何度もやり直せたり、色分け等もできたりしたので、低位の児童も視覚で捉えやすくなり、構成の検討が簡単になった。

『Word 原稿用紙設定』『Padlet』『Book Creator』

→ 推敲が容易になり、効率化を図ることができた。書くことが苦手な児童が、手書きの時と比べ、文量が増加した。

『ミライシード オクリンク』『Teams』 → 意見の共有がしやすくなり、活発な意見・助言の交流ができた。

ICTを効果的に活用することで、国語科「書くこと」における児童の多面的な力を伸ばすことができた。特に、「書くこと」を苦手とする児童にとって、ICT の活用は意欲も高まり、かつ取り組みやすさも相まって力を伸ばすことができたのであろう。

今回の研究では、「書くこと」の力がどの程度まで向上したのかを具体的に測定することはできていない。また、「書くこと」に苦手意識をもっていない児童が ICT を活用することでどのくらい力を伸ばす事ができたかを調査することは行っていない。今後はこの2点に焦点を当てつつ、ICT の良さと手書きの良さのバランスを考え、さらに研究を深めていきたい。